

コスモス 11月号

第72巻 第11号

◆宮柽ニカレンダー（68）十一月の歌

馬跳びの子らの遊びを見おろすに馬として待
つ子の背の孤独
歌集『多く夜の歌』

「冬の光」八首中の四首目、作者はどこか建物の二階にいるようだ。二首前に置かれた歌から想像できる。また子供たちは田の中にいる。冬近い田に注ぐ日射しが子供たちの馬の背に注ぐ。

「馬として待つつ子の背の孤独」なぜ子供の背が孤独に見えたのだろうか。それはこの時の作者の心の有様、「こ」の音の重なりからくるとどこか淋しいリズム、冬のゆうぐれの柔らかな日射し、子供への労わりなど。私の子供のころ、馬跳びは「どん馬」と言ったが少し違う馬だったようだ。（小坂喜久代）